### 4.1.3　水位計設置場所，行動開始水位

　水位計の設置場所は，既往研究1)より最も浸水が早いと判明している管渠とする．

　止水板設置開始とする水位は図-4.4より，降雨強度が32mm/hrまではポンプ場が排水可能な降雨強度であることが分かる．よって，33mm/hr以上の降雨ではポンプ場の排水能力を上回り満管状態に達しているので，地上に溢れ出し，地下街への浸水する可能性があると考えられる．32mm/hrの降雨では，最高水位が管渠の69%であるため，管渠の水位が7割を超えると32mm/hrを超える降雨といえるので，本研究では，水位が管渠の7割に達した時に止水板設置の行動開始とする．



**満管水位**

図-4.4　各降雨に対する水位

### 4.1.4　止水板設置開始タイミング

　止水板設置開始のタイミングは，以下の3つの方法で行う．

①地下街へ浸水が開始となった時を行動開始とする．

②泉広場地上のノード(80500009)が溢水となった時を行動開始とする．これは現在の情報収集は，泉広場地上に設置しているITVカメラより，防災センター内で地上監視を行っているため，泉広場地上付近で最も早いノード(80500009)が溢水の

した時を設定した．

③水位計を用いて，水位が7割になった時を行動開始とする．